

# 野菜栽培装置に参入

## エスキュービズム ネットで割安販売

電子商取引（EC）事業を手がけるエスキュー



ビズムが販売する野菜の人工栽培装置

ビズム（東京・港、越前敬祐社長）は屋内で野菜を人工栽培する装置の販売に参入する。一般家庭から規模の大きい植物流工場まで対応する。EC事業で培ったメーカーとのパイプを生かし、部材や材料を低コストで調達すると同時に、インターネットを通じ直接販売することで在庫を減らし、割安な価格で提供する。

新事業を担う子会社、エスキュービズム・アグリエナジーユニティ（同）を設立した。資本金は1000万円、従業員は5人。初年度に2億円の売り上げをめざす。消費者の健康や安全・安心への関心が高まっていることを受け、屋内で人工栽培した無農薬野菜の需要は大きいと判断した。

装置は光源となる発光ダイオード（LED）照明や液肥、液肥に酸素を供給するポンプ、発泡スチロールなどで構成。単価が高く、育つのが早いベヒーリーフの栽培を主に想定している。

ベヒーリーフは通常では種をまいてから収穫するまでに20〜30日ほどかかるが、24時間態勢で光や栄養を与え続けることにより15日程度に短縮できるといふ。

装置の価格は一般家庭向けが5800円から、農業法人など生産者向けが298万円から。